

ま え が き

健康についての関心は今日ますます亢まりつつあり、“より健康で、より長い命を”との人間本来の願望が最近の健康食品やスポーツブームに強く反映されております。こうした世相は、日本が世界一の長寿国になり、また第2の人生を楽しむ人が現実になくなってきてからのことのようにも思われます。といっても若い年令層、殊に学生諸君は健康についてはほとんどが無関心派に属するといつてよいでしょう。しかし、健康管理の立場からみますと、これらの無関心派に一見些細にみえる検査の異常所見が予期せぬ疾患の危険信号でありうるか（例：チャンスたんぱく尿→腎不全）、また成人病の多くが若い頃からの生活習慣や食習慣の歪みによっていかに影響を受けつつ発症してくるのか（例：動脈硬化の危険因子）を教育しない限り健康管理の実はあがらないのは当然であります。

国立大学保健管理センター所長会議ではその名称を平成元年度より「国立大学保健管理施設協議会」と改め、学生に向けての正しい健康管理と健康教育を二本柱とする新しい健康科学の理念に向つてより時代に即したセンター業務体系の構想を模索しております。

近く「学生の健康白書」がまとめられ、また「大学生のメンタルヘルス業務のためのマニュアル」作成も進められようとしております。本センターにおいても、こうした全国的な趨勢を考慮し、より存在意義のある業務の充実をはかつてゆきたい所存であります。

保健管理センター報告書第17号をおとどけするにあたり、この小冊子がひろく関係各位の御一読を得て、センター業務への一層の御理解と御協力をお願いするに役立つことを期待しております。

終りに、センターの整備・充実に格別の御配慮をいただいた青野学長はじめ、事務系各位に厚くお礼申し上げます。

平成3年1月

金沢大学保健管理センター

所長 竹 田 亮 祐